

【6】4. 聖霊について



- ①聖霊は、人格と神性を有したお方である。
- ②この方は、誤りなきみことばの究極的な作者であり、解釈者である。
- ③この方は、罪人に罪を示し、新生へと導かれる。
- ④この方は、信じた人に証印を押し、聖霊によるバプテスマによって教会の一員とされる。
- ⑤この方は、信じた人のうちに住み、その人に力を与え、その人を教え導かれる。
- ⑥この方の奉仕の主な目的は、キリストを証しし、キリストに栄光を帰すことである。
- ⑦この方の満ち満ちた力と支配は、信仰によって体験するものである。

41

【6】4. 聖霊について



【注解】

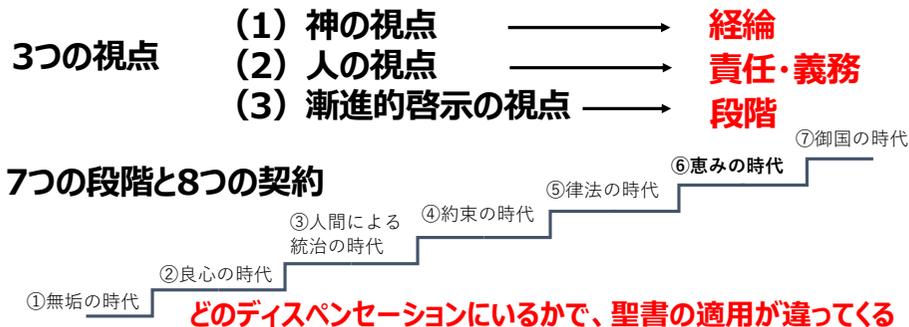
- ④の教会とは、普遍的教会のことである。
- 聖霊はキリストのエージェントであり、バプテスマの主体はキリストである。
キリストが、聖霊というエージェントを用いて、聖霊のバプテスマを授ける。
よって、この方（聖霊）が聖霊によるバプテスマによって信じた人を教会の一員にされるわけではない。
なお、「聖霊のバプテスマ」でも「聖霊によるバプテスマ」でもどちらでも同じあるが、「聖霊によるバプテスマ」という表現の方がより実際の厳密な意味を伝えているので、「聖霊によるバプテスマ」を採用している。

42

【7】5. ディスペンセーション



(1) ディスペンセーションとは
神の計画の進展において明確に区分される経綸
※秩序を整えおさめること。またその方策



43

【7】5. ディスペンセーション



5. ディスペンセーションについて

- ①ディスペンセーションとは、神が地上での自らの目的を管理するために人間に与えた責務であり、その内容は、時代とともに進展する。
- ②各ディスペンセーションは、**救いの方法を提示したもので、**「恵みの契約」の**新しい適用を示したものでもない。**それは、人間が漸進的啓示に基づいて神に服従するかどうかを試すためのものである。
- ③各ディスペンセーションの基となっているのは、以下の3点である。**聖書の字義どおりの解釈、イスラエルと教会の一貫した区別、神の栄光が最終ゴール**であるという認識。
- ④すべてのディスペンセーションにおいて、**救いの原則は不変である。救いの土台はキリストの血潮、救いの方法は恵みと信仰、そして、信仰の対象は神である。**
- ⑤ただし、信仰の内容だけは例外である。信仰の内容は、**漸進的啓示**によりディスペンセーションが移行すると、変化する。

44

【7】5. ディスペンセーション



【注解】

- 進展という言葉は、進歩し、発展するという意味であり、時代の流れに影響されるというニュアンスはない。
- ②の『「恵みの契約」の新しい適用を示したものではない』というのは、**契約神学が恵みの契約のみに立っており、ディスペンセーションに該当するようなものは恵みの契約の新しい展開であり適用であるというが、そうではない**ことを明確にするために書いている。
※漸進的ディスペンセーションについては、後ほど解説
- ディスペンセーションの定義が聖書塾等で教えられているものと表現が違うが、これは限られた言葉でシンプルに分かりやすくするためである。

45

【7】5. ディスペンセーション



- ディスペンセーションの基という言葉は、各ディスペンセーションの理論を支えているのは以下の3点である、という意味である。各ディスペンセーションがなぜディスペンセーションとして成り立つかという、聖書を字義通りに解釈し、イスラエルと教会を一貫して区別し、**神の栄光**が最終ゴールであるという認識があるからである。
- ディスペンセーションの移行というのは、歴史的事実であると同時に、今も起こっていることである。今、私たちは御国の時代に行こうとしている。よって、歴史的事実認識として信じているだけではない。

46

【7】5. ディスペンセーション



神の啓示のゴール（聖書が書かれた目的）

- (1) 神の啓示のゴールは、「人類の救い」ではない。
 - ①「人類の救い」は、目的の一つである。
- (2) 神の啓示のゴールは、「**神の栄光**」である。
 - ①神の約束（計画）は必ず成就する。
 - * イスラエルに対する計画
 - * 教会に対する計画 (エペソ3:6)
 - * **天使たちに対する計画** (エペソ3:10、第1ペテロ1:12、第1コリント6:3)
 - ②神はいかにして計画を成就されるか。
 - * これについて学ぶことは、神の偉大さを認める作業である。
 - ③「神の栄光」とは、神のご性質と関係したものである。

47

【7】5. ディスペンセーション



神の栄光

神の栄光（Glory of God）とは、**神の本質、偉大さ、聖さ、義、愛、力など、神のすべての属性が現れること**を指します。神の栄光は、聖書全体を貫くテーマであり、被造物を通じて、また歴史の中で神の働きを通じて顕現されます。

- (1) 神の栄光の現れ
 - 創造を通して（詩篇19:1）：「天は神の栄光を語る」
 - 歴史を通して（イザヤ6:3）：「その栄光は全地に満ちている」
 - イエス・キリストを通して（ヨハネ1:14）：「ことばは人となり…その栄光を見た」
 - 終末の成就（黙示録21:23）：「神の栄光が都を照らす」
- (2) 人間の使命
 - 1コリント10:31「何をすることも、神の栄光を現すためにしなさい。」**

神の栄光を認め、たたえ、日々の生き方を通じて示すことが、信仰者の使命です。

48

【7】5. ディスペンセーション



（参考）漸進的ディスペンセーション

「ディスペンセーションナリズム Q & A」（中川健一） p184～

- (2) 上記3名の神学者たちが漸進的ディスペンセーションナリズムを創案した理由は、それまでに存在した契約神学とディスペンセーションナリズムの溝を埋めるためです（その溝は、今も存在しています）。つまり彼らは、議論が噛み合わない**契約神学とディスペンセーションナリズムの仲介者的役割**を果たそうとしたのです。しかし、その試みは成功したとは言えません。契約神学の側からは、漸進的ディスペンセーションナリズムは歓迎されています。なぜなら、伝統的ディスペンセーションナリズムを離れ、契約神学に近づいたからです。しかし、ディスペンセーションナリズムの側からは歓迎されていません。そもそも、漸進的ディスペンセーションナリズムの枠組み自体が、伝統的な意味でのディスペンセーションナリズムの範疇に入っているかどうか疑わしいからです。」

49

【7】5. ディスペンセーション



p187 同著

(2) 次に、補完的解釈がもたらした比喩的解釈の具体例をいくつか挙げてみます。

- ① **漸進的ディスペンセーションナリズムは、聖書本文には客観的な意味が一つしかないという事実（意味の単一性）を否定します。**そして、聖書本文には複数の意味があり、解釈者は、著者が表現しようとした意味よりも深い意味を探るべきだと主張します。
※エデン契約？ アダム契約？
- ② 漸進的ディスペンセーションナリズムは、アブラハム契約、ダビデ契約・新しい契約が、民族としてのイスラエルの上に成就する（千年王国において）と信じています。と同時に、これらの契約は、教会の上に今すでに漸進的に成就しつつあるとも主張します。これが、「すでに/いまだに」（Already/notyet）という考え方です。蛇足ですが、**土地の契約の成就に関しては、彼らは沈黙しています。恐らく、説明法が見つからないからでしょう。** → **モーセ契約の更新でもない**

50